



京都大学大学院工学研究科
附属学術研究支援センター
平成25年度事業成果報告

目次

■はじめに

平成25年度事業成果報告 05

1 工学研究科教員の研究を支援する業務(URA業務) 06

1 国内外各種競争的研究資金等にかかる情報収集、及び戦略的な申請書作成支援 06

- (1) 研究資金等にかかる情報収集(公募情報等)、発信
- (2) 研究資金等にかかる申請書作成支援

2 研究プロジェクト等の進捗管理 (研究プロジェクト管理、研究評価・報告等の業務支援を含む。) 07

3 学術研究推進の企画立案等に必要な情報の収集と分析

4 研究成果の発信 (ワークショップ・シンポジウム等の企画開催・運営等の支援業務を含む。) 07

5 企業等との共同研究の実施、特許の活用による研究成果の社会への還元 08

6 URAを普及・定着させるための業務

2 イノベーションプラザにおけるプラザ機能の継承業務 09

1 産学連携コーディネーターの配置 09

2 地域の科学技術振興構想の実現 10

3 産学連携による研究開発、および事業化に向けた取組みの拠点としての活用

4 産学の出会いの場、産学共同による研究発表

平成25年度事業成果報告 資料 11

1-①-1-1 公募情報の発信サイト 12

1-①-1-2 発信を行った公募一覧 14

1-③-1 研究情報DBとその検索システムの構築 16

1-④-1 研究成果コンテンツの作成 17

1-⑤-1 京都産学公連携フォーラム2013の開催支援 20

1-⑤-2 京都大学テックコネク(新技術説明会)2014の開催 22

1-⑤-3 知財セミナー[初級編、上級編]の開催 24

1-⑥-1 学術研究支援センターホームページの開設 26

1-⑥-2 学術研究支援センターリーフレットを作成 28

1-⑥-3 第3回URAシンポジウム/第5回RA研究会に参加、発表 30

2-②-1 先端光加工プロジェクトセミナーの開催 32

2-②-2 親子科学体験教室の開催 33

はじめに

工学研究科附属学術研究支援センターは、研究活動を支援し、新たな研究プロジェクトを整えるとともに、企業からの共同研究ニーズに対し迅速に適任者を推薦することを目的として、平成24年12月1日に工学研究科の附属施設として設置しました。

本センターでは、大学等における研究マネジメント人材であるURA（リサーチ・アドミニストレーター：University Research Administrator の略）を配置し、①国内外各種競争的資金等にかかる情報収集、及び戦略的な申請書作成支援、②研究プロジェクト等の進捗管理、③学術研究推進の企画立案等に必要な情報の収集と分析、④研究成果の発信、⑤企業等との共同研究の実施および特許の活用による研究成果の社会への還元、等の業務を行っています。

一方、本センターの拠点であるイノベーションプラザは、京都市が誘致した桂イノベーションパークにJST（独立行政法人科学技術振興機構）が「JSTイノベーションプラザ京都」として建設し、地域活動拠点としてJSTの技術移転事業等を行っていましたが、平成21年11月13日内閣府行政刷新会議の事業仕分けにより廃止と判定され、平成24年3月末で閉館しました。

本館は、京都大学にとって、大学の使命のひとつである「研究成果の社会還元」の提供の場として、また、京都市にとって、産学連携による研究開発によって新産業・新事業創出を加速する拠点として、重要な役割を果たしていました。

このため、この建物を平成25年4月に京都大学がJSTから譲渡を受け、譲渡の条件であるプラザ機能（①産学連携コーディネーターの配置、②地域の科学技術振興構想の実現、③産学連携による研究開発、および事業化に向けた取り組みの拠点としての活用、④産学連携出会う場、産学共同による研究発表）の10年間承継を、京都市と協同して推進しています。

本冊子は、学術研究支援センターの活動内容を詳細に記載することで、大学の研究成果の社会への還元（社会貢献）への取り組みを、広く社会に公表するとともに、JSTへの年度報告書として作成したものです。

学術研究支援センターでは、今後もこれらの支援活動をより充実させられるよう、積極的に取り組んでまいります。

京都大学大学院工学研究科附属学術研究支援センター

平成25年度事業成果報告

1 工学研究科教員の研究を支援する業務 (URA業務)

1 国内外各種競争的研究資金等にかかる情報収集、及び戦略的な申請書作成支援

(1) 研究資金等にかかる情報収集 (公募情報等)、発信

① 公募情報収集

● 政府、自治体系を中心に公募情報を収集。

研究資金等にかかる政府、自治体系サイトやメールマガジン等から、公募要領等の公募情報を収集した。

▶ 京都大学外部資金公募情報サイト「鎗」

▶ 政府系サイト 文部科学省、(独)科学技術振興機構(以下、JST)、(独)日本学術振興会(以下、JSPS)、経済産業省、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(以下、NEDO)、国土交通省、農林水産省、環境省、厚生労働省、内閣府他(以降、組織名は略称を用いる)

▶ 自治体系サイト 京都府/(公財)京都産業21、京都市/(公財)京都高度技術研究所(ASTEM)

▶ 府省共通研究開発管理システム「e-Rad」 公募一覧サイト

● 民間系公募情報を収集。

事務部門に郵送される研究資金等にかかる公募情報(日本鉄鋼協会、出光興産(株)、中部電力(株)、トヨタ自動車(株)等、総数6件)を収集した。

● JST等大型競争的研究費補助金公募説明会にて公募情報を収集。

公募説明会は、特に大型のものについて出席して、申請書作成に関係する情報を収集した。「革新的イノベーション創出プログラム(COI-STREAM)」、「戦略的創造研究推進事業(CREST・さきがけ)」等、総数12件。

● JSTと情報交換を実施。

JSTのフェロー、コーディネーターと、大型競争的研究を目指したシーズ発掘戦略等に向けて情報交換を行った。

② 公募情報発信

● 工学研究科教職員向けサイトに、公募情報を掲載、周知。

前述の収集した公募情報の中から、研究者にとって「必要な情報」を、「わかりやすい形」で、工学研究科教職員向けサイトに掲載し、研究者に周知した。総計45件の公募情報発信となる。▶資料 1-①-1-1、2(P12、14)

● 関係する研究者に、個別に公募情報をメールで配信。

後述の研究情報DB/フリーワード検索を利用して、公募テーマに関係する研究者を抽出し、個別に公募情報

を通知した。(2件/5研究者) この公募情報個別配信は、研究者が、公募情報を見逃す「機会ロス」を低減するためのものである。

● 公募説明会等の情報を、工学研究科教職員サイトに、掲載、周知。

公募説明会開催案内などの公募関係情報を、工学研究科教職員サイトに、掲載し、研究者に周知した。総計12件の情報発信となる。

(2) 研究資金等にかかる申請書作成支援

● 公募申請支援活動を実施。

問合せ対応、事務処理対応、申請書レビュー等、総計60件の公募支援活動を実施した。以下、主なものを記載する。

▶ JST「研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)FSステージ探索タイプ」への応募を支援。

本公募に対し3件の申請書レビュー等の支援およびコーディネーター申請(5/17)を行い、いずれも、満額(1.7百万円/件)で採択(8/1)された。

▶ 経済産業省「高温超伝導コイル基盤技術開発プロジェクト」(8/30)への応募を支援。

本公募に対し申請書レビュー等の支援を行い、約1.2億円(5年間)で採択(10/18)された。申請に際し、レンタルラボ等の研究環境に関して、調査、交渉、申請などの業務支援を行った。

▶ 文部科学省「地域防災対策支援研究プロジェクト」(8/30)への応募を支援。

本公募に対し、申請書レビュー等の支援を行い、研究費、約15.0百万円(5年間)で採択(10/8)された。

▶ 「科学研究費助成事業(以降科研費)」の名誉教授アドバイザー事業へ対応。

本事業に対し、本部学術研究支援室からの依頼により、5件のレビュー書類を作成、回答した。

▶ 「科研費」の研究計画調書チェックを実施。

「科研費」の研究計画調書チェックに関して、希望者を募集(10/22)、15名の応募があった。URAメンバーにより詳細に読み込み、1申請者あたり数頁のレビュー書類を作成し、回答した。種目別内訳は、下記のとおりである。

基盤研究：9件、若手研究：4件、

挑戦的萌芽研究：2件

- ▶「科研費」書き方セミナー等を開催。

南西地区共通事務部URA、本部URA、研究国際部の協力により、科研費書き方セミナー(9/20)、科研費公募説明会(9/25)を桂キャンパスで開催した。研究者約30名の参加があり、「書き方」から「手続き」まで周知を図った。

- ▶JST「研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)FS シーズ顕在化タイプ」への応募を支援。

JSTコーディネーター相談会を開催(10/7)した。工学研究科の教授1名の参加があった。

- その他、政府系公募を中心に、申請支援を実施。

- ▶JST「さきがけ」公募に対して、本部学術研究支援室

と協力して、打合せおよび申請書レビューを行った。

- ▶環境省「環境研究総合推進費」に対して、6件の申請書レビュー、書類問合せ等の対応を行った。

- ▶文部科学省「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に対して、2件の応募があり、申請書レビューを行った。

- ▶その他、教員との打合せあるいは問合せに対応。

打合せ 10件(CREST、AXA、地域イノベーション戦略支援プログラム他)

問合せ 15件(さきがけ、STAREPS、A-STEPシーズ顕在化、食品健康、JKA、SPIRITS他)

2 研究プロジェクト等の進捗管理(研究プロジェクト管理、研究評価・報告等の業務支援を含む。)

- JSPS「グローバルCOEプログラム」の終結を支援。

本プログラム終了にあたり、本部学術研究支援室と共に教員と打合せを行い、2件の最終報告書作成支援を行った。

- NEDO研究プロジェクト立ち上げを支援。

研究環境(レンタルラボ)の構築支援を行った。

3 学術研究推進の企画立案等に必要な情報の収集と分析

- 工学研究科独自の研究情報DBを新たに構築。

工学研究科の研究室ホームページや論文DBなどの研究情報を調査し、17専攻、約400人の研究者分の研究情報DB化を完了した。そのDBを利用すべく、VBA(Visual Basic for Applications)マクロによりフリーワード検索が可能なシステムを開発し、「研究者への個別情報配信」「企業からの研究情報問合せ」に対して、利用できるようにした。 ▶資料 1-③-1(P16)

- 「科研費」応募、採択状況を分析。

工学研究科の過去3年(23年~25年)の「科研費」の応募、採択状況を、専攻別に整理し、特徴(経費、応募数、応募率、採択数、採択率等)を抽出、分析した。

- 研究動向調査を実施。

国内外の研究動向に関して、最新技術セミナー等に参加し、情報収集を実施した。

4 研究成果の発信(ワークショップ・シンポジウム等の企画開催・運営等の支援業務を含む。)

- 平成25年度外部資金獲得支援プログラム「部局URA提案型外部資金獲得支援制度」に応募、採択。

本プログラムに対し、「企業からの研究資金獲得のための魅力ある研究アピールコンテンツ作成」なる提案を行い採択された。6名の研究者、10件の研究成果について、企業等に向けて「分かりやすさ」を主眼にして、コンテンツ化(冊子、CG他)を行い、産学連携コーディネーター等による評価を行った。 ▶資料 1-④-1(P17)

- 研究発表会、シンポジウム等の開催を支援。

イノベーションプラザにおいて、京都大学主催および京都大学と関連する研究発表会、シンポジウム等の開催を支援した。(8件)

「工学研究科」関係：2件

「研究プロジェクト(触媒・電池元素戦略ユニット等)」関係：3件

「先端光加工プロジェクト」関係：3件

5 企業等との共同研究の実施、特許の活用による研究成果の社会への還元

●共同研究の成立を支援。

企業と工学研究科研究者との仲介、手続き等を行い、2件の共同研究を成立させた。

●企業、産学連携コーディネーターから訪問、問合せ等への対応。

企業、産学連携コーディネーターからの技術に関する相談、研究者の紹介要請等に対応した。(24件)

事例 グラファイト切削屑集塵
固体NMRによる材料解析
熱伝導性のよい金属接合 等

また、前述の研究情報DB/フリーワード検索を利用して、問合せに回答した。候補となる研究者を6件/15先生を紹介した。

●産学連携コーディネーターとの交流を実施。

▶(公財)京都高度技術研究所(ASTEM)の産学連携コーディネーターとの定例会議(1回/月)を開催し、活動情報の共有、産学連携に関する情報交換、検討を行った。

▶中小機構近畿京大桂ベンチャープラザとのコーディネーター交流会(7/11)を開催し、双方の活動等の情報共有を行い、産学連携の下地を作った。

●京都桂産学公コミュニティ・コア活性化を呼びかけ(1/31)。

桂イノベーションパーク地区を中核として、産学公の連携強化、情報発信等を行うために、組織化をスタートした。

●京都工業会主催の京都産学公連携フォーラム2013(11/25)開催を支援。

本フォーラムの実行委員を務め、産学公の連携を深めると共に、工学研究科の研究者の発表機会(材料工学

専攻・助教)を作り、参加企業とのパイプを拡大した。

▶資料 1-5-1 (P20)

●京都地区の官公組織と産学連携に向けリレーションを構築。

京都市、京都市中小企業技術センター、京都府、京都産業21、京都商工会議所、京都産学公連携機構など。

●新技術説明会(「京都大学テックコネクト(新技術説明会)2014」(3/7)を開催。

京都大学産官学連携本部、関西ティー・エル・オー(株)、京都市、(公財)京都高度技術研究所等と連携して、新技術説明会を開催し、企業と京都大学研究者とのマッチングの場を提供した。講演会、見学会なども併設し、企業を中心に参加者が60名を超えた。

▶資料 1-5-2 (P22)

●(公財)京都産業21等が開催する各種交流会に参加。

「京都大学宇治キャンパス産学交流会」、「産学公連携支援事業説明会」に参加し、産学の参加者との情報交換を図った。

●その他

▶知財セミナーを開催。

工学研究科の研究者に対して、知財に関する知識、ノウハウを周知すべく、京都大学産官学連携本部、関西ティー・エル・オー(株)と共に、知財セミナー(初級：11/26、上級：12/17)を開催した。

▶資料 1-5-3 (P24)

▶企業情報DBを構築。

産学連携における企業と大学のマッチングのために用いる目的で、京都、大阪の製造業約200社のインデックスレベルのDBを作成した。

6 URAを普及・定着させるための業務

●学術研究支援室主催の「URAネットワーク会議」に出席。

学内URA組織の連携を図るべく月例で開催されている「URAネットワーク会議」に出席し、学内URA組織とのリレーションの構築とURA最新情報の共有を図った。

●京大URAリトリート(3/27-28)に参加。

学内URAとの親睦、連携を図り、URAに関わる課題を議論する場として開催されたワークショップ「リトリート」に参加し、活動発表、議論等を行った。

●学術研究支援センターのホームページを作成。

学術研究支援センターの設置に伴い、ホームページを新規作成し、公募やイベント情報、センター概要、学

内研究者向け情報、企業向け情報を発信した。

▶資料 1-6-1 (P26)

●学術研究支援センターのリーフレットを作成。

URA活動を学内外に周知すべく、学術研究支援センターのリーフレット(総合編、学内編、企業編)を作成し、関係機関等に配布した。

▶資料 1-6-2 (P28)

●URAシンポジウム/RA研究会(11/18)に参加、発表。

本シンポジウム/研究会にて、学内他部門、他大学とURA活動の情報共有を行うと共に、ポスター発表を行いURA活動に関する説明、議論を行った。

▶資料 1-6-3 (P30)

2 イノベーションプラザにおけるプラザ機能の継承業務

1 産学連携コーディネーターの配置

● 京都大学におけるコーディネーター配置の取り組み。

工学研究科所属の2名のURA (University Research Administrator)、及び1名の事務補佐員を配置し、学内の研究情報の収集、分析を行った。

● 京都市におけるコーディネーター配置の取り組み。

エフォート率が各々100%、80%、20%、20%の地域連携コーディネーター4名((公財)京都高度技術研究所(ASTEM)所属)を配置し、特に、京都地域の中小企業のニーズを収集し、URAと連携して、産学連携活動を行った。また、市域内外の大学等の研究シーズの発掘も行った。

● 京都大学および京都市が協力して産学連携活動を行った地域機関：

- ▶ (公財) 京都高度技術研究所 (ASTEM)
- ▶ (独) 中小企業基盤整備機構近畿本部 京大桂ベンチャープラザ
- ▶ 京都府中小企業技術センター
- ▶ (公財) 京都産業21
- ▶ 関西ティー・エル・オー(株)
- ▶ 京都商工会議所
- ▶ (公社) 京都工業会
- ▶ 京都産学公連携機構
- ▶ 京都市産業技術研究所
- ▶ 関西文化学術研究都市推進機構 他

● 具体的な産学連携活動。

① コーディネーター会議を開催。

URAと地域連携コーディネーターの情報交換、産学連携推進の場として「コーディネーター会議」を開催した。(合計11回)

② 「京都産学公連携フォーラム2013」を開催。

京都地域の産学マッチングの機会を提供するため、「京都産学公連携フォーラム2013」を、(公社)京都工業会、京都市域内外の大学、行政機関等と連携して開催した。(11/25)

③ 「産学公連携コーディネーター交流会」で交流。

京都産学公連携機構が主催する「産学公連携コーディネーター交流会」へ参加し、事業計画を把握すると共に、行政機関、複数のコーディネーター機関

との交流を図った。(3/7)

④ 「京都桂産学公コミュニティ・コア」活性化を呼びかけ。

桂イノベーションパーク地区を中核として、産学公の連携強化、情報発信等を行うため、京大桂地区に関係する行政機関、コーディネーター機関、企業と共に、「京都桂産学公コミュニティ・コア」の活性化を呼びかけた。(1/31) 構成員は、下記である。

- ▶ 京都大学
- ▶ (独法) 中小企業基盤整備機構
- ▶ (公財) 京都高度技術研究所
- ▶ 京都市

⑤ URAシンポジウム/RA研究会(11/18)で発表、交流。

「URAシンポジウム/RA研究会」に参加し、全国の大学とURA活動の情報共有を行うと共に、ポスター発表を行い京都大学イノベーションプラザにおけるURA活動を説明した。

⑥ 広域(地域内外)のコーディネーターとの連携。

地域内外のコーディネーターとの連携を促進するために、コーディネーター交流会等に積極的に参加し交流を深め情報交換・情報収集を行った。(大学6件、官公・支援機関43件、大企業2件・中小企業3件)

⑦ 広域(地域外)におけるコーディネーター活動。

東大阪市の中小企業による異業種交流事業に参画し「先端光加工プロジェクト」の成果の活用促進を図るとともに、地域外の企業に対してニーズ調査、情報交換・収集を進めた。

(官公・支援機関1件、大企業7件・中小企業3件)

● 具体的なマッチング活動：

- ① 企業(京都内外)からのシーズ問い合わせ等に対応し、京都大学の研究者を紹介した(36件)。うち、4件の共同研究を成立させた。
- ② シーズ問い合わせ対応を効率的、効果的に行うため、研究情報DB(京都大学工学研究科の研究内容を蓄積)を構築し、シーズ情報を提供するサービスを開始した。具体的には12件の研究情報を企業あるいはコーディネーターに提供した。

2 地域の科学技術振興構想の実現

● 京都産学共同研究拠点「知恵の輪」(科学技術振興機構)を継続。

京都大学イノベーションプラザ2階にて実施されている京都産学共同研究拠点「知恵の輪」(科学技術振興機構)を継続し、下記の活動を実施した。

▶ 先端光加工プロジェクトセミナーの開催：

1) 研究成果については、先端光加工プロジェクトセミナー「3Dプリンター技術の活用による製造業のイノベーション推進」(10/1)を開催し、講演会に156名の参加者を得た。当初は京都大学イノベーションプラザで開催予定であったが、多数の申し込みを受けて急遽隣接の京都大学ローム記念館に会場を変更した。 ▶資料 2-②-1 (P32)

2) 先端光加工プロジェクトセミナー「先進レーザーが切り拓く革新的加工技術とモノづくり」(2/14)

を開催し、講演会・見学会に企業を中心に62名の参加者を得た。

▶ 先端光加工プロジェクト関連機器の見学：

中小企業等の来訪者に対して、先端光加工プロジェクト関連機器の見学会を実施し、広く研究成果を広報した。(82件)

▶ 技術指導、機器貸し出し：

具体的に上記機器に関し、中小企業に技術指導、機器貸し出しなどのサービスを実施した。(31件)

● 「親子科学体験教室」の開催。

過去にJSTイノベーションプラザ京都が実施していた地域住民との交流イベントである「親子科学体験教室」を、(独)中小機構近畿と連携して開催した。(9/7)

▶資料 2-②-2 (P33)

3 産学連携による研究開発、および事業化に向けた取組みの拠点としての活用

● 研究拠点として活用。

京都大学イノベーションプラザ(研究室、実験室)を、文部科学省「元素戦略プロジェクト〈研究拠点形成型〉」(触媒・電池材料)の研究拠点として活用した。また、

URAとしての具体的な支援として、セミナー室での技術検討会等(9件)の開催支援の他、研究開発に纏わる種々のサポートを行った。

4 産学の出会いの場、産学共同による研究発表

● 次世代レーザープロセッシング技術研究組合平成24年度研究発表会を開催。

イノベーションプラザ1階セミナー室にて、次世代レーザープロセッシング技術研究組合平成24年度研究発表会(5/15)を開催した。講演会、見学会なども併設し、参加者約60名を得た。

● 京都大学テックコネク(新技術説明会)2014を開催。

▶ 関西ティー・エル・オー(株)等と連携して新技術説

明会(「京都大学テックコネク(新技術説明会)2014」(3/7)を開催した。講演会、見学会なども併設し、企業を中心に参加者が約60名を超えた。

▶ 上記イベントにおいて、京都大学研究者と企業との個別相談会を開催し、共同研究への道筋をひいた。

▶ 上記イベントにおいて、地域中小企業、大学研究者によるポスター発表&デモ展示の場を設け、交流の場を拡大した。

京都大学大学院工学研究科附属学術研究支援センター

平成25年度事業成果報告 資料

1-①-1-1 公募情報の発信サイト

学内外の公募情報サイト（官公庁中心）から公募情報を収集し、「必要な情報」を「わかりやすい」形にサマライズ、工学研究科教職員向けサイトに適宜掲載し、研究者に周知を行った。

■工学研究科教職員向けサイトの「競争的研究資金等」のフロントページ。

冒頭に、応募に際し留意すべき事項、応募書類に記載する参考情報、問合せ先等を記載し、その後、現在募集している競争的研究資金のリスト、およびその概要を記載している。

The screenshot shows a website page with a blue header containing navigation links: 研究公募, 教員公募, 事務手続, 諸様式, 規程類, 掲示板, 行事予定, 会議資料. The main content area has a left sidebar with a menu: 研究公募・教員公募, 研究推進・国際交流公募, 研究助成【H26/3/24】, 研究助成(ブロック異推薦)【H26/3/27】, 共同利用【H26/2/7】, 競争的研究資金等【H26/3/31】 (highlighted), 国際交流事業(日本学術振興会・その他)【最終更新: H26.3.13】, 【参考情報】外部資金関連情報リンク集, 【参考情報】「産」(本部による外部資金公募情報サイト), 教員公募. The main content area has a breadcrumb trail: トップページ > 研究公募・教員公募 > 研究推進・国際交流公募 > 競争的研究資金等【H26/3/31】. The main heading is 競争的研究資金等. Below it, a text block states: 文部科学省(含JST)、経済産業省(含NEDO)等の機関HPにおいて、競争的研究資金等の公募情報が更新されましたので、お知らせします. A section titled 留意していただきたい事項 contains text: 競争的研究資金等に応募されるにあたり、【留意していただきたい事項】(wordファイル)を必ずお読みください。応募形態ごとの手続き方法を記載しています. A section titled 参考にしていただきたい情報 contains a list: e-Radにおける研究機関コード : 2114301000 (10桁), 「系・分野・分科・細目表」付表キーワード一覧, 担当者(経理,知財・産学連携)情報. A contact information box provides: 問い合わせ: 工学研究科附属学術研究支援センター, 住所: 〒615-8245 京都市西京区御陵大塚1-30 イノベーションプラザ, TEL: 075-383-2834, FAX: 075-383-2833, E-mail: 090ura@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp. The bottom section is titled 現在募集中の競争的研究資金等一覧 and includes a sub-section 最新更新情報 NEW with a list item: 「環境・医療分野の国際研究開発・実証プロジェクト/先進的医療機器システムの国際研究開発及び実証/人工関節・手術支援システム構築に係る研究開発・実証」(5/2締切).

▶ 発信した公募情報例①

(No. 79) **NEW** 京都発革新的医療技術研究開発助成事業 [🔗](#)

- 掲示日： 3月31日
- 公募機関： 京都市
- 応募方法： 郵送あるいは持参
- 公募締切： **~4/22(火)**
- 概要：

「ライフイノベーション創出支援事業」の一環として、京都市内の大学の研究者等を対象に、医薬品や医療機器の開発につながる革新的な医療技術に関する研究開発に助成を行い、医療分野における新技術・新産業の創出を図ることを目的とする。
- 対象事業：

医療機器、医用材料、医薬品・診断薬、ケミカルプローブ、健康・介護・リハビリ分野の革新的な医療技術に関する研究開発
- 公募タイプ： 助成（助成率：100%）★
- 助成金額： 直接経費の上限：100万円（間接経費を含み上限：130万円）
- 研究期間： 助成決定日～平成27年2月末日(単年度)
- 公募説明会

座席に限りがあるので、開催前日までに ikouyaku@astem.or.jpへ、お名前と参加希望日をお知らせください。当日参加も可能ですが、満席の際には、予約者を優先します。

 - ◆ 第1回公募説明会

日時：2014（平成26）年4月8日（火） 15:00～16:00
場所：公益財団法人 京都高度技術研究所 10階 プレゼンテーションルーム（京都市下京区中堂寺町134）
 - ◆ 第2回公募説明会

日時：2014（平成26）年4月11日（金） 11:00～12:00
場所：一般社団法人 芝蔴会 芝蔴会館別館 2階研修室
（京都市左京区吉田牛ノ宮町11-1）
- 留意事項
 - ◆ 助成対象経費のうち、設備、備品費は、補助金額の50%未満とする。
 - ◆ 申請書のレビューについては、事前にASTEMのコーディネーターに個別相談することができます。希望者 は、予め学術研究支援センターまでお知らせ下さい。

学術研究支援センター
電話：桂2834 メール：090ure@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

▶ 発信した公募情報例②

(No.65) 平成26年度交通運輸技術開発推進制度における研究開発業務 [🔗](#)

- 掲示日： 2月5日
- 公募機関： 国土交通省
- 応募形態： e-Radおよび郵送(一部の書類)
※事務部門によるe-Rad承認が必要ですので、締切にはご注意ください。
- 締切： **平成26年3月17日(月) 17時必着**
- 目的：

国土交通省の政策課題の解決に資する研究開発テーマを毎年度設定した上で、当該テーマごとに研究実施主体から研究課題の公募を行い、提案された課題の中から有望性の高いものを採択した上で、研究開発業務として委託するものである。
- 研究テーマ：
 - 新規
 - [1] 交通インフラにおける老朽化対策、事前防災・減災対策及び最適な維持管理・更新
 - [2] 交通・輸送システムの安全性・信頼性等向上
 - 継続
 - [1] コンテナクレーンの耐震化技術及び維持管理技術の向上による国際競争力強化の研究開発
 - [2] 橋上の乱気流事故防止システムに対する信頼性評価の研究開発
 - [3] 離島の交通支援のためのシームレス小型船システムの開発
 - [4] 海洋鉱物資源開発における交通運輸分野の技術開発に関する研究
 - [5] 沿道騒音対策策定のためのインテリジェント化されたアコースティックイメージングシステムの実用化研究
→詳細は、URLの公募要領を参照ください。
- 研究費： 3,500万円/初年度/件
- 研究期間： 課題によって異なる。
- 研究形態： 受託研究(単年度)

1-①-1-2 発信を行った公募一覧

総数45件（政府系37件、自治体系：2件、民間系：6件）の公募情報の発信を行った。

公募名称	公募機関
「非可食性植物由来化学品製造プロセス技術開発」	(独) 新エネルギー・産業技術総合開発機構
「平成25年度研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)【第2回】」	(独) 科学技術振興機構
「平成26年度産発プロジェクト展開鉄鋼研究」	日本鉄鋼協会
「平成25年度研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)【復興促進型・第2回】」	(独) 科学技術振興機構
日本-台湾研究交流「バイオエレクトロニクス」および「バイオフォトニクス」	(独) 科学技術振興機構
「連携型イノベーション研究開発事業」	(公財) 京都産業21
原子力人材育成等推進事業費補助金平成25年度国際原子力人材育成イニシアティブ(2次公募)	文部科学省
地球環境変動観測ミッション 第5回研究公募	宇宙航空研究開発機構筑波宇宙センター・地球観測研究センター
地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)における平成26年度研究提案の募集 ～政府開発援助(ODA)との連携による国際共同研究～	(独) 科学技術振興機構
戦略的創造研究推進事業(ERATO型)における研究総括候補の推薦(他薦)の募集	(独) 科学技術振興機構
A-STEP 平成25年度第3回 FSステージ シーズ顕在化タイプ	(独) 科学技術振興機構
厚生労働科学研究費補助金(三次)	厚生労働省
第13回「トヨタ先端技術共同研究公募」	トヨタ自動車(株)
平成25年度産学共同実用化開発事業(第3回)	(独) 科学技術振興機構
環境研究総合推進費 平成26年度新規課題募集	環境省
連携型イノベーション研究開発事業(課題解決型研究開発促進事業)の第2次募集	(公財) 京都産業21
(公財)JKA 平成26年度研究補助	(公財) JKA
A-STEP ハイリスク挑戦タイプ(復興促進型)【マッチング促進】	(独) 科学技術振興機構
平成25年度農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業【実用技術開発ステージ】緊急対応研究課題	農林水産省
平成26年度厚生労働科学研究費補助金	厚生労働省
新規な芳香族/複素芳香族化合物 ～有機EL材料開発のパートナー募集～	出光興産株式会社
中部電力 原子力安全技術研究所 特定テーマ公募研究	中部電力(株)
京都大学医学部附属病院臨床研究総合センター 流動プロジェクトの公募について	京都大学
平成26年度ライフサイエンスデータベース統合推進事業[統合化推進プログラム]	(独) 科学技術振興機構

公募名称	公募機関
平成26年消防防災科学技術研究推進制度	消防庁
平成26年度レギュラトリーサイエンス新技術開発事業	農林水産省
平成26年度加速器科学総合支援事業「大学等連携支援事業」	大学共同利用機関法人・高エネルギー加速器研究機構
河川砂防技術研究開発制度・平成26年度河川砂防技術研究開発公募	国土交通省
H26年度 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	農林水産省
三次元造形技術を核としたものづくり革命プログラム(次世代型産業用3Dプリンタ技術開発及び超精密三次元造形システム技術開発)	経済産業省
中部電力 原子力安全技術研究所 公募研究(一般) 2014年度	中部電力(株)
平成26年度交通運輸技術開発推進制度における研究開発業務	国土交通省
大学発新産業創出拠点(STAR)プロジェクト プロジェクト支援型 第一サイクル	文部科学省
平成26年度放射能調査研究委託事業「放射性核種の農畜産物への吸収移行及び農林生産環境における動態に係る調査研究」	農林水産省
平成26年度放射性物質測定調査委託事業「福島県及びその周辺における農畜産物及び土壌の放射能汚染レベルの動向把握」	農林水産省
国際科学技術共同研究推進事業(戦略的国際共同研究プログラム)CONCERT-Japan研究交流課題「光技術を用いたものづくり(Photonic Manufacturing)」分野の募集	(独)科学技術振興機構
平成26年度未来のあるべき社会・ライフスタイルを創造する技術イノベーション事業	環境省
国際科学学術共同研究推進事業(戦略的国際共同研究プログラム)日本-カナダ(NSERC) 共同研究課題の募集	(独)科学技術振興機構
国際科学学術共同研究推進事業(戦略的国際共同研究プログラム)日本-フランス 共同研究課題の募集	(独)科学技術振興機構
革新的研究開発推進プログラム(ImPACT)にかかるプログラム・マネージャーの公募	内閣府
H26年度建設技術研究開発助成制度の公募 政策課題解決型技術開発公募 政策課題解決型(一般タイプ)	国土交通省
平成26年度新分野創生センターブレインサイエンス研究分野プロジェクトの募集	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構
「次世代送電システムの安全性・信頼性に係る実証研究」に係る公募	(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構
「太陽熱エネルギー活用型住宅の技術開発」に係る公募	(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構
「環境・医療分野の国際研究開発・実証プロジェクト/先進的医療機器システムの国際研究開発及び実証/人工関節・手術支援システム構築に係る研究開発・実証」	(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構

1-③-1 研究情報DBとその検索システムの構築

工学研究科400名超の研究者の研究内容を、各研究室のホームページ等から抽出、入力しDBを構築した。並行して、フリーワード検索スクリプト（AND検索、OR検索）を開発した。これらを用いて、企業や産学連携コーディネーターからの研究シーズの問合せや、公募情報などの研究者へのダイレクトメールに活用している。



1-④-1 研究成果コンテンツの作成

企業との共同研究推進を目的に、研究成果を企業向けにアピールするためのコンテンツを試作し、知見、ノウハウの蓄積を行った。いずれも、「わかりやすさ」に重点をおき、種々のメディアを選択的に利用したものとなったが、研究テーマ、研究者によってコンテンツに対するニーズは多種多様である。

研究者	テーマ	メディア	
材料工学専攻 教授	自己集積化による薄膜材料創製	CG	①
	(コンテンツ外部配信基盤)	WEBシステム	②
合成・生物化学専攻 教授	溶媒効果によるらせんキラリティー反転 (新機能)	動画CG	③
	光機能材料向け高分子ナノロッドの積層 (新材料)	動画CG	④
機械理工学専攻 教授	文化財のデジタルコンテンツ化と関連技術 (高解像度スキャニング、色管理等)	A5版冊子	⑤
化学工学専攻 准教授	次世代リソグラフィ技術に向けた誘導自己組織化 (DSA: directed self-assembly) シミュレーション	A4版パンフレット	⑥
化学工学専攻 助教	赤外分光イメージングによる解析、可視化	スライド	⑦
電気工学専攻 教授	高温超伝導技術 (基礎)	A4版フライヤー	⑧
	高温超伝導技術 (応用)	A4版フライヤー	⑨
	高温超伝導技術 (全般)	スライド	⑩

■ 主なコンテンツの紹介

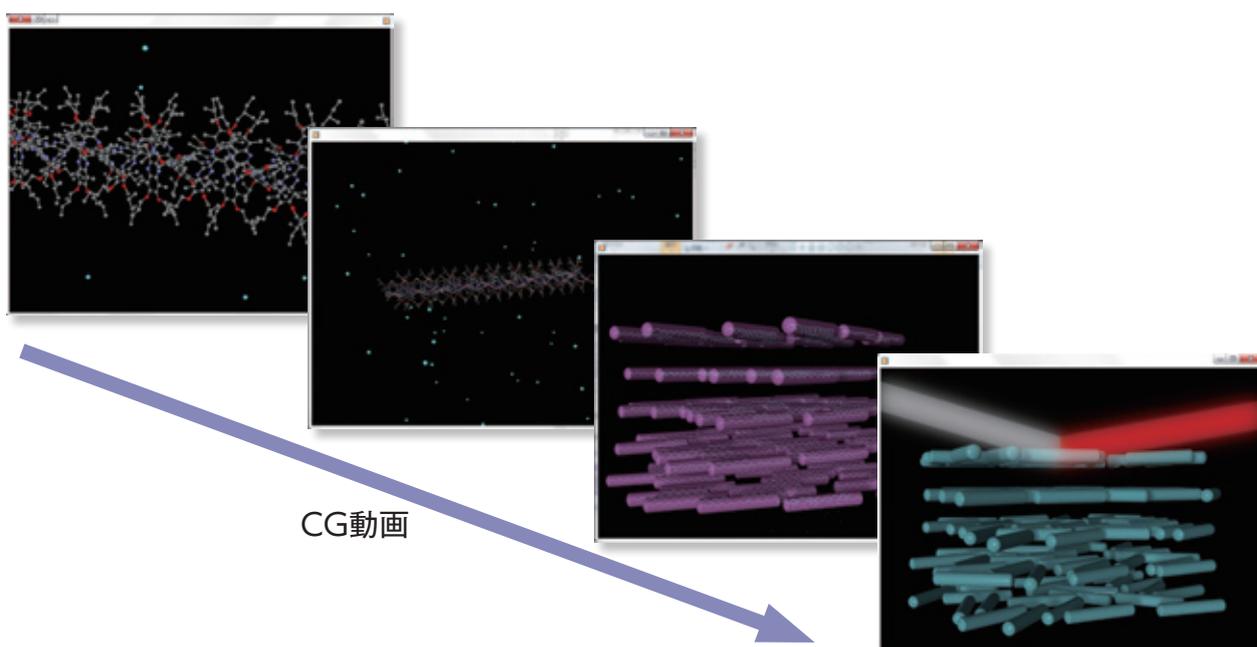
② 材料研究成果の配信基盤構築

企業からの論文の検索要請が多いので、研究成果そのものより、論文等の成果をわかりやすく検索、配信できるコンテンツWEBシステムの構築が急務であった。



③ 材料研究成果のコンテンツ化

従來說明が困難であった材料創製プロセスを、動画CGで表現することにより、専門家でなくても理解が容易になった。



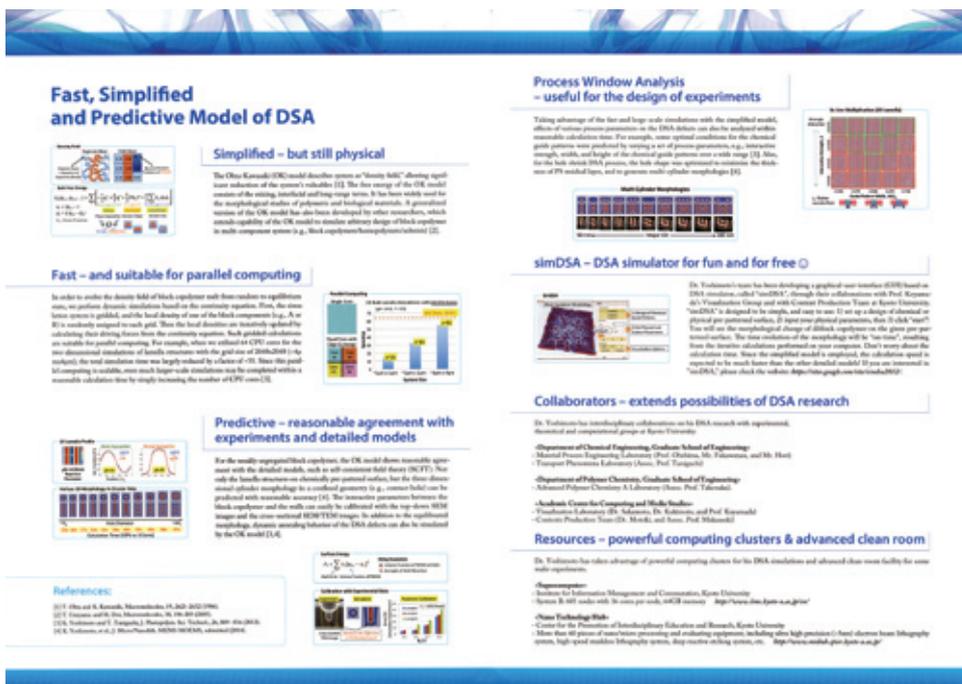
⑤高精細デジタルコンテンツ研究のコンテンツ化

文化財等を高精細画像として取り込み、アーカイブとする研究活動を紹介する冊子を作成した。従前、このようなまとまった印刷物がなかったので、対外アピールが容易にできるようになった。



⑥「半導体技術」研究成果のコンテンツ化

企業向け、学会向け、特に海外向けに研究成果をアピールするためのリーフレットを作成した。



京都工業会での京都産学公連携フォーラムの開催を支援した。講演とポスターセッションで構成され、190名の参加があった。京都大学からは、材料工学助教が講演を行った。

▶パンフレット

京都発。新産業・新技術の創出をめざして 京都産学公連携フォーラム 2013

駐車場(80台)有り
交流会参加者の利用はご遠慮ください

11/25 月

13:00 ~
19:00

京都工業会館

京都市右京区
西京極豆田町 2

阪急: 西京極駅から東へ徒歩8分
市バス: 202号、205号西大路花屋町下車、西へ徒歩13分
33号大門町下車、北へ徒歩5分

第1部 フォーラム 13:00~17:20 (無料)

1. 講演 13:15 ~
「再生医療ビジネスに不可欠なもの作り技術」 (90分)
 講師 京都大学再生医科学研究所
 生体組織工学研究部門 生体材料学分野
 教授 田畑 泰彦 氏
2. 休憩 14:45 ~
3. 「シーズとの出会い」 15:00 ~
 3会場で12テーマのシーズ発表を行います。内1会場では企業によるシーズ発表を行い、他の2会場では参画8大学のシーズ発表を行います
 また、**シーズ発表者と、別室で個別に相談**することが出来ます(当日申込み要)
「発表テーマ分野」
 環境・省エネの関連技術、医療関連技術、材料・新素材の開発・加工技術、
 分析・計測・制御・エレクトロニクス技術、開発支援

第2部 交流会 17:30~19:00 (有料 3,000円)

発表者と参加者で質疑応答、懇談、意見交換を行います

- 主催 京都工芸繊維大学、京都産業大学、京都大学、京都府立医科大学、京都府立大学、同志社大学、立命館大学、龍谷大学、京都府、京都市、京都商工会議所、京都産学公連携機構、(公社)京都工業会
- 後援 近畿経済産業局、(独)産業技術総合研究所 関西センター、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構 関西支部、中小機構 近畿、(公社)関西経済連合会、(公財)関西文化学術研究都市推進機構、(公財)京都高度技術研究所、(公財)京都産業21、(一社)京都発明協会、(公財)大学コンソーシアム京都、京都リサーチパーク(株)、関西ティー・エル・オー(株)、京都新聞社、KBS京都

お申込・お問合せ:(公社)京都工業会 Tel. (075)313-0751
申込締切日:11月18日(月)

(注)第1部の参加については定員(230名)を超える場合に、参加をご遠慮願うことがありますので、お早めにお申込み下さい

▶ 京都大学・助教の発表ポスター



焦電結晶を用いた小型希土類分析装置

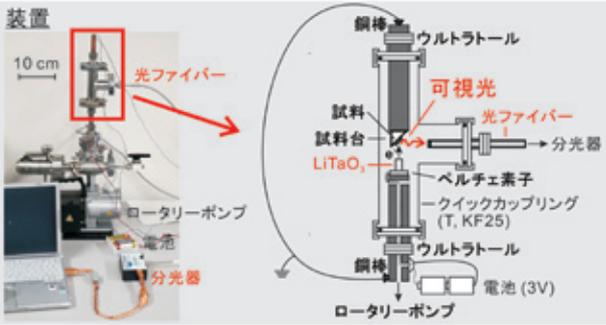
(京都大学) 今宿 晋

現在、採掘現場における鉱物中に微量に含まれる希土類元素の簡易分析にはハンドヘルド型蛍光X線装置が使われている。しかし、鉱石のように数種類の希土類元素が存在する場合、ハンドヘルド型蛍光X線装置では互いの特性X線が重なり、希土類元素の識別ができない場合がある。本研究では、焦電結晶および小型分光器を用いてカソードルミネッセンス現象を利用して携帯可能な小型希土類分析装置を開発し、希土類元素が複数含まれていても、希土類元素を識別することができた。

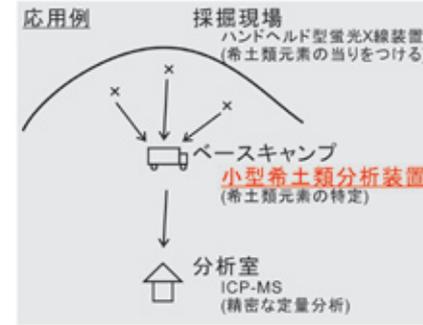
装置の特長

- ・持ち運びが可能
- ・希土類元素が数種類含まれていても識別可能
- ・希土類元素の濃度が数十ppmでも測定可能
- ・操作が簡単、メンテナンスが不要

装置



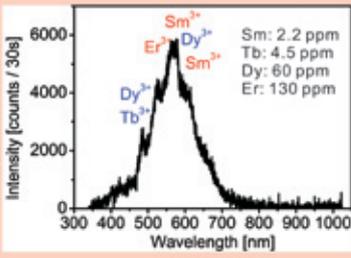
応用例



測定例

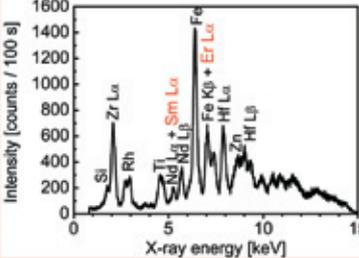
本装置

測定試料: ジルコン



- ・蛍光X線分析では識別困難な希土類元素(Sm, Er)の識別が可能
- ・微量含まれる希土類元素(Tb, Dy)の検出が可能

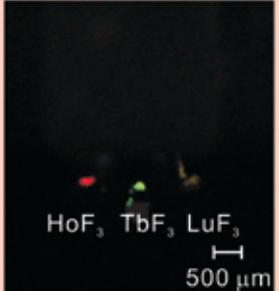
蛍光X線分析装置



元素マッピング

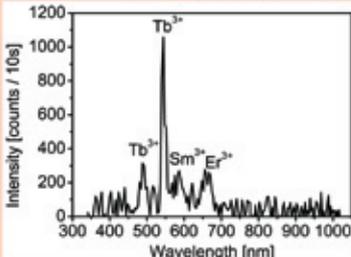


電子線照射

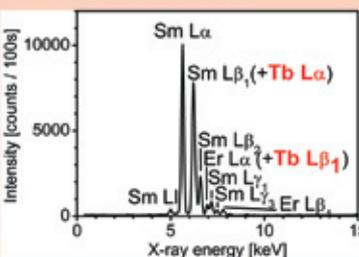


- ・希土類を含む微粒子の識別が可能

測定試料: SmF₃(95%), ErF₃(4.5%), TbF₃(0.5%)



- ・蛍光X線分析では識別困難な希土類元素(Sm, Tb, Er)の識別が可能



企業と大学の共同研究等の産学連携を推進する場として、新技術説明会を開催した。大学の研究成果を、企業の方々に説明し、相談会、懇親会等により密な交流を図った。

▶開催パンフレット

TechConnect

京都大学 テックコネクト 新技術説明会 2014

2014/3/7 金
13:30～17:00
(交流会 17:15～18:45)

**京都大学大学院工学研究科
イノベーションプラザ 1Fセミナー室**
京都市西京区御陵大原1-30 桂イノベーションパーク内
アクセス:<http://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/access/katsura>

定員：60名(先着順)
申込締切：2014年2月27日 金
(申込方法については裏面をご参照下さい)

参加費：無料
(交流会 2,000円)

プログラム

- 13:00 受付開始
- 13:30 ▶ポスター発表&デモ展示
～14:45 ▶見学：「知恵の輪」プロジェクト
～先端光加工プロジェクト関連機器～
- 15:00 ▶技術講演会
～17:00 開会挨拶 長谷川博一
(学術研究支援センター：センター長)
 - 木村俊作(材料化学：教授)
「20～100nmの範囲で粒径サイズをnmレベルで規制できる均一ナノ粒子の作製技術」【機能性材料関係】
 - 跡見晴幸(合成・生物化学：教授)
「超好熱菌の特異な代謝とその強化」【バイオ関係】
 - 三浦清貴(材料化学：教授)
「超短パルスレーザーによる材料プロセスとその応用」【材料加工関係】
 - 陰山 洋(物質エネルギー化学：教授)
「チタン酸バリウムにおける水素と電子の活用」【電池、センサ関係】
- 17:15 ▶交流会
～18:45 企業の方と講演の先生方との交流の場

個別相談会
企業の方と講演の先生方との個別相談の場

■主催 京都大学大学院工学研究科附属学術研究支援センター
京都大学産官学連携本部、京都市、(公財)京都高度技術研究所

■共催 (独)中小企業基盤整備機構近畿本部 京大桂ベンチャープラザ

■後援 京都府中小企業技術センター、(公財)京都産業21
関西ティー・エル・オー(株)

お問い合わせ先
京都大学大学院工学研究科
附属学術研究支援センター(宮井、土田)
TEL:075-383-2834 E-mail:090ura@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

▶開催報告

京都大学テックコネクト(新技術説明会)2014を開催しました

掲載日: 2014/03/24

京都大学大学院工学研究科附属学術研究支援センターでは、平成26年3月7日(金)に桂キャンパスイノベーションプラザにおいて、京都大学テックコネクト(新技術説明会)2014を開催しました。今回が初回の開催で、企業関係者を中心に、60名を超える参加がありました。

プログラム前半は、京都のベンチャー企業を中心に10社が、ポスター発表&デモ展示を行い、同時に、「知恵の輪」プロジェクト・先端光加工プロジェクト関連機器の見学会も開催しました。

プログラム後半の技術講演会では、北野正雄工学研究科長、北村康二京都市新産業振興室長の挨拶に続き、産官学連携本部 金多隆准教授が本学の産学連携制度について説明を行いました。その後、4名の工学研究科教員(材料化学講座 木村俊作教授、合成・生物化学講座 跡見晴幸教授、材料化学講座 三浦清貴教授、物質エネルギー化学講座 陰山洋教授)が、それぞれの研究成果について、基礎技術説明だけでなく、その応用にまで言及した講演を行いました。講演後は個別相談会を実施し、共同研究実施に向けた検討を行いました。

講演会終了後に交流会として、参加者と教員との交流の場を設け、いろいろな技術質問、意見交換などで、熱心な話し合いが続きました。

来場者からは、ポスター発表と見学会では「見応えがあった。」「もっと枠を拡げてほしい。」との声が上がリ、技術講演会では、「最先端の研究内容を知ることができた。」等の感想がありました。



技術講演会の一場面



ポスター発表・デモ展示の一場面

1-⑤-3 知財セミナー[初級編、上級編]の開催

若手研究者を中心に、特許の重要性や実務、安全保障輸出管理、契約等を中心にセミナーを、初級編と上級編に分けて開催した。

▶プログラム（初級編）

開会挨拶	産官学連携本部 知財・ライセンス化部門
京大の技術移転の成功事例 ～発明が事業化したときの感動～	関西TLO株式会社
共同研究の基本的ポイント ～より良い共同研究とは?!～	産官学連携本部 共同研究部門
学内で発明が生まれるなら… ～知っておくと安心・安全、お得?! 研究における特許について～	産官学連携本部 知財・ライセンス化部門
学術研究支援センターの紹介 ～お役に立ちます、URA!～	工学研究科 附属学術研究支援センター
閉会挨拶	工学研究科 学術協力課

▶プログラム（上級編）

開会挨拶	産官学連携本部 知財・ライセンス化部門
学術研究支援センターの紹介 ～お役に立ちます、URA!～	工学研究科 附属学術研究支援センター
安全保障輸出管理について ～先生!!ちょっと待って下さい!!～	研究国際部 研究推進課 安全保障輸出管理担当
契約の際に注意していただきたいこと ～共同研究契約、秘密保持契約、大型研究プロジェクト等～ ～MTA（研究試料の提供/受入のときに）～	工学研究科 学術協力課 産学交流掛/産官学連携本部 法務部門 産官学連携本部 知財・ライセンス化部門
大学における知財戦略について	産官学連携本部 知財・ライセンス化部門
京大の技術移転の成功事例 ～発明が事業化したときの感動～	関西TLO株式会社
閉会挨拶	工学研究科 学術協力課

▶開催報告

知財セミナー（初級編・上級編）を開催しました

掲載日：2013/12/26

平成25年11月26日及び12月17日に、桂キャンパスイノベーションプラザにおいて、産官学連携本部主催による知財セミナー（初級編・上級編）が開催されました。知財とは、特許などを意味する「知的財産」の略称です。今回のセミナーは、研究成果を社会へ還元し、先進技術の実用化の促進を図ることを目的として、産官学連携本部の知財に関する専門家が、学内の教職員を対象に実施したものです。

11月に開かれた初級編では、発明が実用化されるまでの実施の流れ、企業と大学との共同研究についての手続きと契約時のポイントや、研究成果の論文発表前には特許出願を済ませておくべき、という基本的な事項について、丁寧な説明がありました。

12月の上級編では、企業と共同研究する際の注意点、秘密保持契約の重要性、MTA（研究試料の提供／受入に関する契約）契約の必要性などについての説明と、大学における知財戦略や、安全保障輸出管理など、研究のグローバル化に伴うリスクへの対応について事例を交えた説明がありました。

また、本学のライセンス活動を行っている関西TLO株式会社から「京大の技術移転の成功事例」と題して、発明の実用化の困難さと、社会における重要性について説明がありました。

二日間とも満席となった会場では、参加者は熱心に講演を聞き、活発な質疑応答もあり、関心の高さがうかがわれるセミナーとなりました。

京都大学は、研究・教育に加え「研究の成果を普及し、及びその活用を促進する」という社会貢献を第三の義務として明確に宣言しておりますの、今後も研究成果の社会還元積極的に取り組んでいきます。



セミナー会場となった

京都大学大学院工学研究科イノベーションプラザ

(本建物は平成25年4月にJSTより京都大学に譲渡されました)



満席になったセミナー室

1-⑥-1

学術研究支援センターホームページの開設

学術研究支援センターの広報・コミュニケーションメディアとして、ホームページを開設した。現状、アクセス数は、500件/月前後である。

▶ ページ例 フロントページ



▶ ページ例 センター長挨拶



▶ ページ例
支援業務

The screenshot shows the homepage of the Center for Academic Research Support, Kyoto University Graduate School of Engineering. The main navigation bar includes 'Home', 'Center Introduction', 'For Researchers', 'For Companies', and 'Business Content'. A search bar and a language selector (English) are also present. The left sidebar has a 'Business Content' menu with 'Support Business' selected. The main content area is titled '支援業務' (Support Business) and lists several services: ① Grant application support, ② Project management, ③ Grant information analysis, ④ Workshop support, ⑤ Joint research with companies, and ⑥ Matching fund support. Below the text is a circular diagram with 'Academic Research Support Center' at the center, surrounded by six categories: 'Grant Application Support', 'Project Management', 'Research Information Collection/Analysis', 'Joint Research', 'Matching Fund Support', and 'Workshop Support'.

▶ ページ例
企業の方向けのページ

The screenshot shows the 'Support Business for Companies' page. The navigation bar is the same as the homepage. The left sidebar has 'For Companies' selected. The main content area is titled '企業の方へ向けた支援業務' (Support Business for Companies) and features a sub-header 'URAと産官学連携フェローの協力体制' (Cooperation System of URA and Industry-Academia-Researcher Linkage Fellows). It lists three main areas: 1. Joint research with companies, 2. Support for companies in technology and innovation, and 3. Exchange and communication between companies and the university. Each area includes specific services like researcher introduction, matching fund support, and technology exchange. At the bottom, there are four diagrams illustrating these processes: 'Joint research', 'Support for technology and innovation', 'Researcher introduction', and 'Exchange and communication'.

1-⑥-2

学術研究支援センターリーフレットを作成

学術研究支援センターのリーフレットを作成した。総合版、学内版、企業版の3種類を作成し、用途に応じて使い分けている。

▶総合版

概要

■京都大学におけるURA活動：
本学では文科省公認「リサーチ・アドミニストレーター(URA)を育成・確保するシステムの整備」に採択されたことに加え、研究支援に関して高度な専門知識をもつURAを雇用し、「学術研究支援室」を設立させた。さらに、学術研究支援室を中心に、有機的繋がりの京都大学URAネットワークの構築を目的として、7期毎にURA組織を設置した。

■工学研究科におけるURA組織(「学術研究支援センター」)：
京都大学工学研究科では、URA組織として、2012年12月に学術研究支援センターを設立した。2013年5月に、京大地区のイノベーションプラザ1階に事務所を開設し、本格的な活動を開始した。学術研究支援センターでは、京都大学学術研究支援室と連携して、工学研究科の研究活動の支援、新たな研究プロジェクトの整備、企業等からの共同研究ニーズへの対応など目的に活動を行っている。現在、リサーチ・アドミニストレーターおよび産官学連携フェローが常駐している。

■工学研究科のURA組織とその関連機関：

アクセス

京都大学大学院工学研究科
附属学術研究支援センター
〒615-8245
京都市西京区醍醐大塚1-30
イノベーションプラザ1階
TEL: 075-383-2834
FAX: 075-383-2833
E-mail: 090ura@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
URL: http://www.nac.kyoto-u.ac.jp/js

総合版

RESEARCH ADMINISTRATION CENTER Graduate School of Engineering, Kyoto University

京都大学大学院工学研究科附属
学術研究支援センター

学術研究支援センターでは、センター所属のURA[※]メンバーが、研究者の研究資金獲得などの研究活動を支援します。また、センター常駐の産官学連携フェローと共に、企業との共同研究などの産学連携活動を支援します。

- ・研究資金の獲得を目指している研究者の方
- ・研究成果の発信を希望されている研究者の方
- ・企業と大学との共同研究を希望されている方
- ・大学の新しい技術をお探しの方

お気軽にご相談ください。

※ University Research Administrator:「研究者とともに研究活動の企画・マネジメント、研究成果活用促進を行うことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する人材。」(文科省)

RESEARCH ADMINISTRATION CENTER Graduate School of Engineering, Kyoto University

◆学内研究者向けには、下記のような研究支援業務を行っています。

競争的研究資金に関する情報収集、申請書作成	・競争的研究資金の公募情報の収集、メール、会議による通知 ・募集要項の理解と申請書類に関するサポート、レビュー
研究推進の企画立案に必要な情報の収集、分析	・学内研究の調査・評価の促進とサポートサービス ・国内外の研究・調査情報の収集と共有
研究成果の発信	・研究業績の分析、立案による学内への発信 ・研究成果の活用に関する情報提供、連絡先の提供
企業等との共同研究の実施、研究成果の社会還元	・学内研究のニーズに応じた企業等との連携の企画 ・企業と大学とのマッチング支援の実施

◆支援業務の例：

申請書作成支援

公開情報の通知

企業との共同研究の支援

技術説明会の開催

RESEARCH ADMINISTRATION CENTER Graduate School of Engineering, Kyoto University

◆企業向けには、URAと産官学連携フェローが協力して、下記のような産学連携業務を行っています。

企業と大学との共同研究の実施	・企業ニーズに合った研究情報の紹介 ・企業と大学とのマッチング交流会の開催 ・企業と大学との共同研究の仲介、サポート
技術や特許の企業に向けた広報	・企業に合った研究成果の紹介 ・企業に合った特許情報提供の開催
企業と大学との技術交流の推進	・企業と大学との特許交流会の開催 ・産学連携コーディネーターとの連携

◆支援業務の例：

共同研究の実施

技術や特許のIP発信

研究情報の紹介

技術交流会/マッチング交流会の開催

▶学内向け

学内向け

RESEARCH ADMINISTRATION CENTER Graduate School of Engineering, Kyoto University
京都大学大学院工学研究科附属
学術研究支援センター



学術研究支援センターでは、URA[®]メンバーが研究者の皆さんの研究活動を支援します。

【注】University Research Administrator「研究者とともに」研究活動の企画・マネジメント、研究資金の管理・取組を行うことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発プロセスの強化等を支援する業務に従事する人材。正式名称

- ・研究資金の獲得を目指している方
- ・研究成果の発信を希望されている方
- ・企業との共同研究を希望されている方

お気軽にご相談ください。

学術研究支援センター
〒615-8245
京都市西京区御陵大原1-30
イノベーションプラザ様1階
TEL: 075-383-2834
E-mail: 09Oura@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
URL: http://www.rac.kyoto-u.ac.jp/ja

▶企業向け

企業向け

RESEARCH ADMINISTRATION CENTER Graduate School of Engineering, Kyoto University
京都大学大学院工学研究科附属
学術研究支援センター



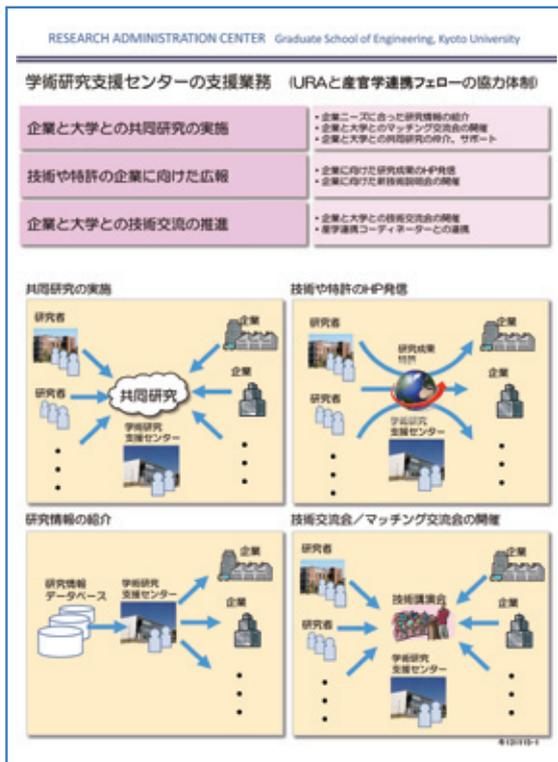
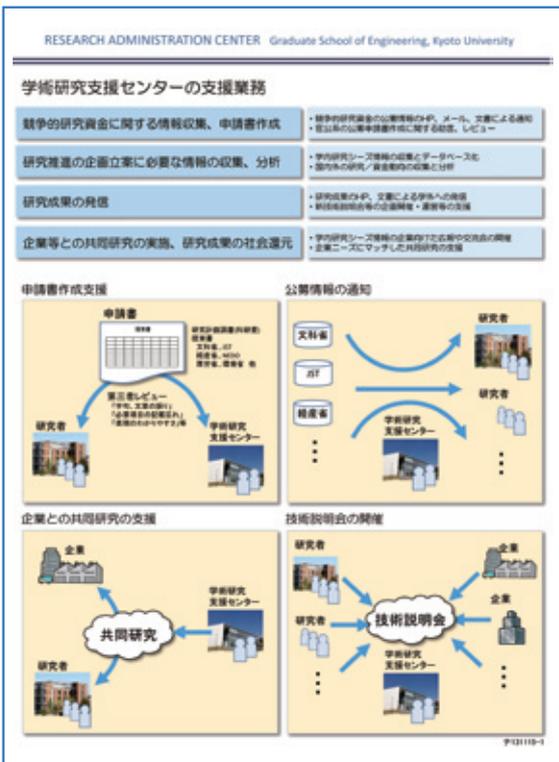
学術研究支援センターでは、URA[®]メンバーと産官学連携フェローが協力して、企業の皆様と研究者とのマッチング活動を支援します。

【注】University Research Administrator「研究者とともに」研究活動の企画・マネジメント、研究資金の管理・取組を行うことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発プロセスの強化等を支援する業務に従事する人材。正式名称

- ・大学との共同研究を希望されている方
- ・大学の新しい技術をお探しの方
- ・大学の研究者との交流をお考えの方

お気軽にご相談ください。

学術研究支援センター
〒615-8245
京都市西京区御陵大原1-30
イノベーションプラザ様1階
TEL: 075-383-2834
E-mail: 09Oura@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
URL: http://www.rac.kyoto-u.ac.jp/ja



1-⑥-3

第3回URAシンポジウム/第5回RA研究会に参加、発表

全国大学URAが一同に介するシンポジウムが京都大学で開催された。学術研究支援センターは、ポスターセッションで発表した。

▶案内ホームページ

第3回 URAシンポジウム・第5回 RA研究会 ~合同大会~

- ホーム
- プログラム [View](#)
- 参加登録 [Close](#)
- ポスター発表募集 [Close](#)
- アクセス
- リンク

問合せ（世話人へ）

京都大学東京
 学術公連携センター
uranetwork@iml.tmu.ac.jp
 Tel:042-677-2759
 担当:岡部

（金沢大学連絡窓口）
 先端科学・イノベーション推進機構
 Tel:076-264-5267
 担当:坂本

2013 **11/18-19** 開催

研究プロジェクトにはURAが必要だ。

リサーチアドミニストレーターネットワーク（仮称）の設立について
 「日本のURAネットワーク構築に向けて」はこちら
 「日本URAネットワーク（仮称）見聞会参加のお願い」はこちら

リサーチアドミニストレーターネットワーク（仮称）形成に向けて準備会開催までのアレンジを担う「世話人大学」は金沢大学・首都大学東京に決まりました。

★ 京都大学百周年時計台記念館

本合同大会では高い実績を有する国内のURAを招き、URAの実務・組織運営について紹介すると共に、大学における研究活動やイノベーション促進にむけてのURAネットワークの機能について議論します。
 参加対象：URA及び研究支援業務に携わる職員・教員（研究者）

第3回URAシンポジウム・第5回RA研究会 合同大会は多くの方にご参加いただき、盛会のうちを終了いたしました。ご支援・ご参加いただきました全ての皆様にもより御礼申し上げます。
 また、プログラムの発表資料については、ご承認いただいた方の身のみ後日掲載させていただきます。

お知らせ

2013.12.24 改題変更を掲載いたしました。
 リサーチアドミニストレーターネットワーク（仮称）形成に向けて準備会開催までのアレンジを担う「世話人大学」は金沢大学・首都大学東京に決まりました。

URA:University Research Administrator

再々、我が国の大学では外部委員会との連携とそれに基づく研究プロジェクトの適切な運営が研究活動の活性化とつながっている。これに伴い研究プロジェクトの企画立案や申請支援、研究プロジェクトのマネジメントや広報等を担うリサーチ・アドミニストレーター（仮称）への期待が高まっている。

主催 文部科学省「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」事業採択機関
 東京大学、東京理科大学、金沢大学、名古屋大学、京都大学、早稲田大学、北海道大学、筑波大学、大阪大学、九州大学、新潟大学、山口大学、東京女子医科大学、福井大学、徳川大学、九州工業大学

（※第5回RA研究会は下記の採択第一順校5大学主催）

▶学術研究支援センターの発表ポスター

演題番号
RA-P22

京都大学工学研究科における URA活動の特徴

宮井 均 長谷川博一
(京都大学工学研究科・学術研究支援センター)

工学研究科のURA関連プロフィール

<p>組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 5系 (地球、建築、物理、電気、化学) / 17専攻 ● 研究者: 約450名 <p>公募情報通知案件 (/年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 競争的研究資金: 約100件 ● 研究助成: 約200件 	<p>外部研究資金 (/年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 科研費: 約350件 (応募) ● 受託研究: 約150件 ● 共同研究: 約250件 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 論文: 約2000件 ● 広報: 取材、プレスリリース他
---	---

学術研究支援センター

- 組織が大規模
- 研究が大量多種多様
- URAリソースが有限

課題

他機関／部門との連携、ITなどの活用、業務プロセス改善などにより、実効遂行力強化が必要。

研究遂行支援
(公募申請支援、プロジェクト、情報収集／発信)

施策

- **マルチパス、ターゲティングによる情報通知**
 - ✓ マルチパス (ネット/HP、「ピラ」)
 - ✓ ターゲティング (研究DBによる絞込み)
 - 情報伝達速度向上
 - 情報伝達リーチ度向上
- **事務部門との連携**
 - pre- & post-awardの事務部門との分担/プロセス連携
- **公募申請支援プロセスの改善**
 - 過去公募事例の活用
 - 申請書レビュー定型化
チェックリスト、
回答シートなど

産学連携支援
(共同研究、特許化)

施策

- **産官学連携フェローの配置**
 - 京都市・地域連携コーディネーター
→ ニーズ収集、
技術説明会、
マッチング交流会等
- **パートナーとの連携**
 - 中小機構 (ベンチャープラザ)
 - 京都高度技術研究所
 - 京都産業21、中小企業技術センター
 - 産官学連携本部
 - 関西TLO(株) 他
- **研究者DBの活用**
 - 企業からの問合せ
 - コーディネーターからの問合せ

2-②-1

先端光加工プロジェクトセミナーの開催

先端光加工プロジェクトセミナー「3Dプリンター技術の活用による製造業のイノベーション推進」を、京都市/（公財）京都高度技術研究所と共に、共同開催した。



先端光加工プロジェクトセミナー
「3Dプリンター技術の活用による製造業のイノベーション推進」

平成25年10月1日(火)
13:30-17:20 (情報交換会 17:30-19:00)
会場:京都大学大学院工学研究科
イノベーションプラザ 1Fセミナー室
京都市西京区御陵大原1-30 桂イノベーションパーク内
元JSTイノベーションプラザ京都
アクセス:www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/access/katsura/
(情報交換会:中小企業基盤整備機構近畿本部
京大桂ベンチャープラザ南館会議室)

定員 **60名** 参加費無料 (情報交換会費 2,000円)

Program

13:30-13:35 開会挨拶
平尾一之(京都大学大学院工学研究科 教授/先端光加工P)プロジェクト長)

13:35-14:35
「3Dプリンターの各種方式と応用例」
株式会社スリーディー・システムズ・ジャパン
春日寿利(プロダクション・プリンティング・システムズ事業部 営業部 マネージャー)

14:35-15:35
「金属光造形複合加工による金型づくり」
パナソニック株式会社 エコソリューションズ社
吉田徳雄(生産技術開発センター 工造技術開発グループ 参事)

15:35-15:50 休憩

15:50-16:20
「次世代レーザープロセッシング技術研究組合の事業紹介」
亀谷圭介(次世代レーザープロセッシング技術研究組合 技術参事)

16:20-17:20
「超短パルスレーザーの応用展開について」
三浦清貴(京都大学大学院工学研究科 教授)

17:20-17:25 閉会挨拶
長谷川博一(京都大学大学院工学研究科附属学術研究支援センター センター長)

17:30-19:00
情報交換会

申込締切
平成25年9月24日(火)

お問い合わせ先
(公財)京都高度技術研究所
新事業創出支援部 SLグループ(水谷)
TEL:075-391-1141 E-mail:mizutani@astem.or.jp

主催 京都市、(公財)京都高度技術研究所、次世代レーザープロセッシング技術研究組合、京都大学大学院工学研究科附属学術研究支援センター
共催 (独)中小企業基盤整備機構近畿本部 京大桂ベンチャープラザ
後援 経済産業省近畿経済産業局、京都商工会議所、(公社)京都工業会、京都産学公連携機構

2-②-2 親子科学体験教室の開催

桂地区の自治会と大学との交流イベントとして開催した。

▶開催パンフレット

京大桂ベンチャープラザ

親子科学体験教室



京大桂ベンチャープラザでは、科学実験等の体験を通して科学技術の魅力を子どもたちに伝えることを目的に下記イベントを企画いたしました。
親子で科学実験をしながら科学のおもしろさを体験してみませんか。皆様のご参加お待ちしております。

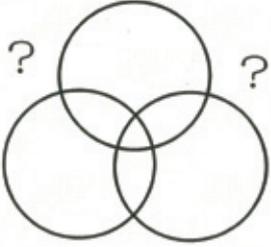
『光と色のカラフル・ワンダフル』

講師 辻光裕先生(京都市青少年科学センター 指導主事)

身のまわりを見わたすと、様々な色が目に飛び込みます。全ての色は、光があるからこそ見えるものです。カラフルな光や色でワンダフルな実験をしながら、光や色をしっかりと調べ、その本質にせまっていきましょう。また、目に見えない光についても実験したいと思います。

<実験内容(予定)>

- ・赤外線や紫外線を用いた観察・実験
- ・RGB ライトを使った CMY の影の演示
- ・赤ライト下での色画用紙の見分けクイズ
- ・印刷物の拡大観察による色の3原色
- ・液晶画面の拡大観察による光の3原色
- ・3色 LED を使ったの光の混色実験
- ・分光シートを使った観察と工作



- 日 時 平成 25 年 9 月 7 日(土) 13 時 30 分～15 時 30 分(受付:13 時から)
- 場 所 京都大学大学院工学研究科イノベーションプラザ (地図裏面参照)
- 対 象 小学1年～6 年の児童(定員 50 名)※1～4 年生のご参加は、保護者の同伴をお願いします。
- 参加費 無料
- 申込方法 京大桂ベンチャープラザ宛、E-maiまたはFAXにて受付。
下記①から⑤をご記入のうえ送信をお願いします(様式自由)。
①参加者氏名、②小学校名 ③学年 ④同伴者人数(大人〇名、子ども〇名(年齢))、
⑤連絡先(メールアドレスまたは FAX 番号及び電話番号)をお知らせください。
- 申込締切 8月27日(火) 申し込み多数の場合は抽選とし 8 月 29 日(木)以降に参加の可否についてメールまたは FAX にて連絡いたしますので、必ずご確認ください。

参加申し込みはこちら

中小機構近畿 京大桂ベンチャープラザ IM 室 (京都市西京区御陵大原 1-36)

E-mail: info@kkvp.jp または FAX: 075-382-1262

(お問い合わせは 北館 075-382-1062 または 南館 075-382-1252 まで)

主催:中小機構近畿 京大桂ベンチャープラザ 共催:京都大学大学院工学研究科附属学術研究支援センター
後援:京都市、京都桂産学公コミュニティコア 協力:㈱ファーマフーズ、マイコム㈱、三洋化成㈱(予定)

▶開催報告

[トピックス・イベント](#)
[アクセス・キャンパスマップ](#)
[お問い合わせ](#)
[サイトマップ](#)

 京都大学
工学部・大学院工学研究科

入学案内
学科・専攻等
教育・キャンパスライフ
研究・産官学連携
国際交流

ホーム
トピックス・イベント
トピックス・学振協力課
「親子科学体験教室」を開催しました

トピックス・イベント

トピックス

- ▶お知らせ
- ▶入試情報
- ▶研究
- ▶国際交流
- ▶受賞・表彰
- ▶在学生向け
- ▶学振協力課

イベントカレンダー

教職員公募

「親子科学体験教室」を開催しました

掲載日:2013/09/13

京都大学工学研究科附属学術研究支援センターでは、9月7日(土)に京大桂キャンパスイノベーションプラザにて、隣接する中小機構近畿 京大桂ベンチャープラザと連携して、「親子科学体験教室」を開催しました。本教室には、小学生49名と保護者51名の参加がありました。

当日は、講師に京都市青少年科学センター 辻光裕指導主事を迎え、「光と色のカラフル・ワンダフル」と称し、色にまつわる原理説明と実験を行いました。

主な内容は、「印刷物や液晶画面による3原色」、「3色 LED を使ったの光の混色実験」「RGBライトを使った CMY の影の演示」などで、児童らは先生の説明を目を輝かせて聞き入ったあと、準備されたキットを使った様々な科学実験を体験しました。

開催後のアンケートでは、「けいこう灯がいろいろな色でできているのがびっくりした。」「将来、京都大学で活動したいと思った。」等多数の感想をいただきました。

本教室は、昨年度までは J S T イノベーションプラザ京都が子供達の「理科離れ」対策と近隣住民との親睦を回すことを目的として毎年実施していた事実であり、来年度以降も桂地区の他機関と連携して開催する予定です。



講師による説明風景



児童らによる実験風景

京都大学大学院工学研究科附属学術研究支援センター
平成25年度事業成果報告

発行 2014年9月

編集 京都大学大学院工学研究科附属学術研究支援センター

発行者 長谷川博一

京都大学大学院工学研究科附属学術研究支援センター

〒615-8245

京都市西京区御陵大原1-30 イノベーションプラザ

TEL: 075-383-2834

FAX: 075-383-2833

E-mail: 090ura@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

<http://www.rac.t.kyoto-u.ac.jp/ja>